「社会」に開かれた進路指導

――多様な他者とのかかわりの中で

次期学習指導要領を通じて、各校においてその実現が求められているのが、「社会に開かれた教育課程」だ。それは、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていく」(＊1) というものである。当然、そのような教育課程に基づいて行われる指導も「社会に開かれた」ものである必要がある。そこで今号では、進路指導にスポットをあて、AIの進化に代表される技術革新やグローバル化などによって大きく、そして予測不可能な形で変化する社会の中で、その指導はどうあればよいのか、教師にはどのような役割や視点が求められるのかについて考えていく。

＊1　高等学校学習指導要領（2018年3月公示）・前文

Q　中央教育審議会の答申（＊2）では、「進路指導」は下記のように定義されています。そのような定義での進路指導において、今後課題となることは何だと思われますか。

進路指導とは、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。

＊2　中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

◎すべての生徒に、細やかな指導が行き届いているとは言えない。教師集団と分掌との目線合わせがうまくいっていないのが、その原因の1つだと考えている。（北海道）

◎高校卒業時の「出口」の指導に注力してしまい、どうしても長期的な人間形成の視点が希薄だ。また、変化している社会への認識を、多くの教師が十分に持てていないようだ。そのために、生徒の可能性や選択肢を狭めてしまっている。（栃木県）

◎進路指導が就職指導・受験指導にとどまっていると感じている。本校には生き方や働くことについて考える学校設定科目があるが、その内容は10年以上前のもので、実態に即した指導ができていない。皆忙しく、内容を見直す機会を持てないのが原因の1つだ。（静岡県）

◎「どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいか」について、答えは1つではない。生徒一人ひとりに応じて対話することは、社会経験など、教師にはいろいろな力が必要となるが、それが十分ではないと思う。（鹿児島県）

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果（アンケートは、2018年10月にウェブとファクスで実施）。

本号のテーマ

社会の変化、及び教育改革・入試改革を踏まえた、これから求められる進路指導のあり方を考える

自分のあり方・生き方を考え続ける力を高校時代に育む

座談会

▶▶▶ P.4 ～ 11

「やりたいことは何か」
「自分の人生をどう使うか」を
生徒に
問い続けていきます

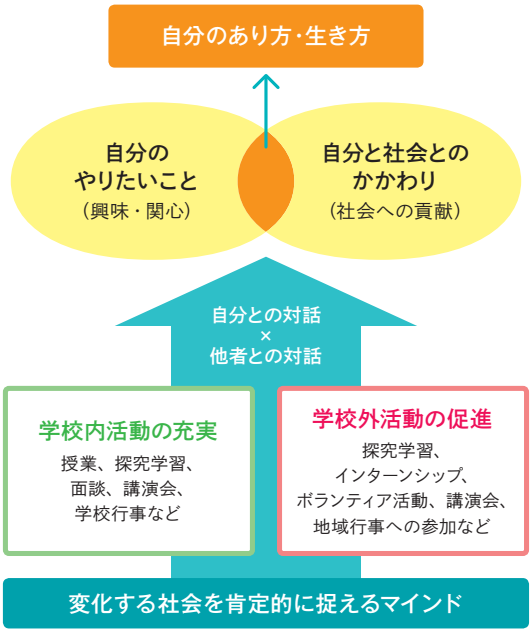
福岡県立
城南高校校長
和田美千代

夢を考え直さざるを
得なかった「失敗」が、
自分には必要だったと
今は思えます

大阪市立大学
3年
吉田梅乃

悩みながら回り道をしてきた
人たちとの出会いが、
価値観は多様でよいと
教えてくれました

九州大学
1年
鬼塚浩明



＊取材を基に編集部で作成。

これから主流となる
複線的なキャリアを
築くためには
かけ算の発想が必要です

立教大学
経営学部教授
中原 淳（じゅん）

どこにいたとしても
よりよい自分を目指し、
いかに学ぶかが重要だと
気づきました

お茶の水女子大学
1年
宇井瑞希（ういみずき）

先生からの問いかけで
立ち止まって考えたからこそ、
大切にすべきことが
分かりました

広島市立大学
1年
齊藤秀太（さいとう）

事例

▶▶▶ P.12 ～ 24

事例1

秋田県立
秋田南高校

教師との対話と
生徒自身の内省により、
メタ認知能力を高め、
高い志を育む

事例2

広島県・私立
広島女学院中学高校

人間形成重視の指導を
保護者とも共有し、
生き方や社会との関係を
深く考えさせる

事例3

長崎県立
諫早高校（いさはや）

対話を通した
多様性との出会いの中で
「キャリアエリート」を
育てる